

バリアフリーとユニバーサルデザイン

よく耳にする言葉ですが、いざ旅行や行楽へ出掛けようとするると大変苦労するのも、このような施設が少ないことです。「ユニバーサル・ツーリズム・ガイド」は北海道内のバリアフリー・ユニバーサルデザインを完備した観光施設・宿泊施設・商業施設をまとめたガイドブックです。第1刊は札幌市を中心とした空知・胆振・後志方面を特集いたしました。障害のある方も、ご高齢の方も、ぜひ参考にさせていただき楽しい旅行や行楽をお楽しみください。

●バリアフリー＝バリア（障壁、さえぎるもの）がないこと

バリアフリーとは、障害のある人が社会生活をしていく上で障壁（バリア）となるものを除くという意味で、1974年（昭和49年）に国連障害者生活環境専門家会議において「バリアフリーデザイン」という報告書が出されたところから、この言葉が使用されるようになりました。

もともとは建築用語として登場し、建物内の段差を無くすなど物理的障壁の除去という意味合いが強かったのですが、近年はより広く障害のある人の社会参加を困難にしている社会的、制度的、心理的なすべての障壁の除去という意味でも用いられています。

一般的に4つのバリアがあるとされています。

●ユニバーサルデザイン＝すべての人のためのデザイン

ユニバーサルデザインとは、ユニバーサル＝普遍的な、全体の、という言葉が示すように「すべての人のためのデザイン」を意味します。年齢や障害の有無にかかわらず、多くの人が利用できるようにデザインすることを言います。

この言葉や考え方は1980年（昭和55年）にアメリカ・ノースカロライナ州立大学のロナルド・メイス氏によって明確化され、7つの原則が提唱されました。

ユニバーサルデザインの7つの原則

1. 誰でも使えて、手にいれることができる【公平性】
2. 柔軟に使用できる【自由度】
3. 使い方が簡単にわかる【単純性】
4. 使う人に必要な情報が簡単に伝わる【わかりやすさ】
5. 間違えても重大な結果にならない【安全性】
6. 少ない力で効率的に、楽に使える【省体力】
7. 使うときに適当な広さがある【スペースの確保】

●ユニバーサルサービスをご存知ですか？

子どもから大人・高齢者・病気の人、妊婦さん・障害のある人・外国の人まで、あらゆる人に対して公平な情報やサービスを提供することを言います。建物がユニバーサルデザインであっても接客が悪ければ台なしです。また、建物がバリアであってもお店の対応が良ければ、とても気持ちよかったです。

エレベーターの設置や点字ブロックなど施設や店舗の改築は費用がかかり、次々に作ることはできませんがユニバーサルサービスは気付いた日から始めることができます。これも一つのユニバーサルデザインと言えるでしょう。